コラム

㊶

高野山 奥の院

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

奥の院。聖地と墓地で構成される独自のお寺です。第１に，弘法大師が今も衆生救済のために廟所で生きておられる（入定留身）と信じられていること。それゆえに，奥の院は行者の聖地。四国遍路の出発前と結願後は，奥の院にお詣りするのが習わしです。第２には，驚くほどの多様な墓の存在。20万石とも言われる墓石が，一の橋からの２km弱の参道の両側に並んでいます。織田信長の墓があれば明智光秀の墓があり，親鸞の墓があれば日蓮の墓もある。遊郭の人の墓もあれば，軍人会の墓も。なかには，前田利長（利家の息子）夫妻のように，参道を挟んで向かい合って建つ墓も（夫婦別墓の始まり？）。敵や味方，宗派や身分を超えた，多様性がみられる墓地です。密教の娑婆即寂光浄土の思想が具現化した，絶対平等世界なのでしょう。

墓のなかには，会社のお墓や職業団体の墓もあります。消防人のお墓は纏（まとい）の形。珈琲会社はコーヒーカップ，キリンの墓石や，ロケットの墓石，工員のレリーフを刻んだ墓石もあります。職員と工員が別の墓となっているものもあります。それを見て歩くだけでも，興味が持てる場所です。

歩いていると，気がかりなことが２つみつかりました。第１は，企業再編のなかでなくなった企業の墓地が存在すること。墓地の維持管理は，誰が負担するのだろうか？　それとも維持管理する人がなくなり，やがて無縁墓地に移されるのだろうか？　そんなことを考えました。

▲奥院にたたずむ消防墓

第２は墓地の名称が，新しい社名に変わっているものがありました。2008年に社名を変えたパナソニックは，その10月に「パナソニック墓所」と名称を変えています。墓地までブランドが管理されています。しかし，そこに祀られている方は「松下電器」が良かったのではないか？　名称変更に気づいて言い出したのは総務だろうか，人事だろうか？　社内でどんな議論が行われたのだろうか？　余計なお世話だと思いながらも，つい考えてしまいます（パナソニックの方，失礼があればごめんなさい）。

墓地の維持には，永遠の努力を必要とします。不滅の存在たり得ない企業が墓地をもつことは，心情的に同意しつつも理性的には？　難しい問題です。

（MBO実践支援センター代表）